

記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜）	担当課	電話	発表者 （担当班長名）	その他 配布先
7月 31日 （月）	農林水産部 治山課	内線 4136	前嶋 昭 （山田 剛）	
	土木部 砂防課	内線 4472	肥田 憲明 （藤井 健司）	
	神戸県民センター 六甲治山事務所	078-742-8431	橋本 志信 （市田 明人）	
	神戸土木事務所	078-737-2160	作田 良文 （齋藤 了）	

『六甲山の災害展』の開催について

1 開催日時

令和5年8月15日（火）～8月27日（日）

〔8月21日はセンター休館日（毎週月曜日）のため、非開催〕

9時30分～17時30分（入館は16時30分まで）

2 場 所

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 西館1Fロビー

（住所）〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 （電話）078-262-5050

3 趣 旨

平成9年より毎年2週間にわたり、来場者の山地災害に関する知識や防災意識の向上を目的として「六甲山の災害展」を開催しています。

明治時代は「はげ山」だった六甲山系の森林復興の歴史や、昭和13年の阪神大水害、昭和42年の豪雨災害、平成7年の阪神・淡路大震災など、幾度となく大規模な土砂災害を発生させてきた六甲山の災害の歴史と、その都度復旧を遂げてきた記録が学べるパネルや立体模型を展示します。また会場には動きのある降雨体験装置や土石流実験装置等を常備し、災害時の状況を目で見て体験して頂けるようにします。

4 内 容

(1) 六甲山系の土砂災害発生状況のパネル展示

昭和13年阪神大水害や昭和42年豪雨災害、平成7年阪神・淡路大震災、平成30年7月豪雨災害による土砂災害の被害状況と砂防・急傾斜・治山工事による復旧状況等を写真パネルで紹介します。

(2) 六甲山系立体模型の展示

治山ダムや砂防堰堤の整備状況を実際に見ることができ、六甲山の緑や市街地を守っていることが理解できる立体模型を展示します。

(3) 土石流模型実験装置等の実演

- ① 2台の土石流模型実験装置(長さ3m、高さ1.5m)により流木・土石流を再現し、家屋や道路の被害の様子を、治山ダム等が整備されている場合と整備されていない場合で見比べ、災害に対する抑止効果を体感できる。
- ② 降雨体験装置“カップくん”により、山崩れ等が起きやすい集中豪雨(時間雨量30mm～100mmの人工降雨)の強さや降り方を目や耳で体感できる。
- ③ 山腹斜面において、R・R(ロープネット・ロックボルト)併用工法が施工されている場合の山腹崩壊の防止効果を実演
- ④ 森林土壌を再現した実験装置で、森林のある場合とない場合を見比べ保水力の違いを体感できる。
- ⑤ 地すべりや急傾斜地崩壊による土砂災害発生メカニズムや、対策が施されている場合の防止効果を小型模型により実演する。

(4) 配布物

ハザードマップ(神戸市のみ)

5 共催者

兵庫県・神戸市・国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所

6 協力者

(一社)兵庫県治山林道協会

7 その他

- (1) 当災害展は、人と防災未来センターで開催されている「夏休み防災未来学校2023」のプログラムのひとつとして開催します。
- (2) 実験装置実演の映像や過去の災害映像(阪神大水害デジタルアーカイブなど)、その他防災に関するウェブサイトが閲覧できるポータルサイト型ホームページを作成し、公開しています。(https://www.rokkosan-saigaiten.jp/)